

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 5月29日現在

機関番号：12603

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2010～2012

課題番号：22720151

研究課題名（和文）東洋文庫所蔵西夏文文献マイクロフィルムの整理とデータベース化

研究課題名（英文）Linguistic Studies on the Tangut Document Based on the Research of Microfiches kept in the Toyo Bunko

研究代表者

荒川 慎太郎 (ARAKAWA SHINTARO)

東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・准教授

研究者番号：10361734

研究成果の概要（和文）：西夏語は、11-13世紀に中国西北部の要衝を占めた西夏国で話された言語である。西夏文字・西夏語は話者・使用者が絶えたものの、仏典をはじめとした豊富な言語資料が残る。ロシア科学アカデミー東洋写本研究所は、質量共に一級の西夏語資料を有しており、一部の文献のマイクロは、日本の東洋文庫に保管されている。本研究では、ロシア所蔵の西夏文文献の整理とデータベース化を進展させると共に、ロシア所蔵資料を用いた言語学的研究を行った。

研究成果の概要（英文）：The Tangut is a dead language spoken in the Xixia dynasty which is located in the northwest area of China from 11th to 13th. However nobody use the Tangut language and script, many materials including Buddhist texts are existing today. The Oriental Manuscript Institute (St. Petersburg, Russia) keeps a huge mount of materials. A part of them is microfilmed and preserved in Toyo-Bunko (Tokyo, Japan). This study developed the arrangement in the database of the Tangut materials and the linguistic study based on the materials.

交付決定額

(金額単位：円)

| | 直接経費 | 間接経費 | 合計 |
|--------|-----------|---------|-----------|
| 2010年度 | 1,200,000 | 360,000 | 1,560,000 |
| 2011年度 | 600,000 | 180,000 | 780,000 |
| 2012年度 | 1,200,000 | 360,000 | 1,560,000 |
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 総計 | 3,000,000 | 900,000 | 3,900,000 |

研究分野：言語学

科研費の分科・細目：言語学

キーワード：言語学、西夏語、西夏文献、東洋文庫

1. 研究開始当初の背景

(1) 西夏研究と課題点

「西夏」は11世紀から13世紀、中国西北部の要所を占めた国家である。西夏文字・西夏語は使用者が絶えたが、仏典をはじめとし

た豊富な文献資料を残した。ただし資料的な制約などから、近年まで西夏文献の研究は十全なものとはいえなかった。

研究の遅延の一つは、西夏の言語は漢字を模倣した疑似漢字である「西夏文字」によっ

て記されており、西夏語資料の読解が難しかったためであった。また、ロシアや中国といった、大量の西夏語文献の所蔵国では、資料の公開が進まず、諸研究者に資することができなかったことも一因だった。

(2) 研究環境の整備

一方 1990 年代以降、研究環境は大きく変わった。西夏研究の基礎資料となる、ロシア、中国の所蔵文献は、前者が 1996 年、後者が 2005 年から、大型図録の形（『俄蔵黒水城文献』、『中国蔵西夏文献』など）で刊行が進み、研究者は十年前とは桁違いの資料を目にすることが出来る時代となった。

西夏文字の電子的情報処理も進んだ。研究代表者が監修を務めた、外字フォント集『今昔文字鏡』（紀伊国屋書店）「西夏文字フォント」6000 字により、手書きやスキャニングに頼らざるを得なかった西夏文字のテキスト化は、従来より格段に容易になった。こうした背景も、本研究を成立させる基盤である。

(3) 国内外の研究動向

西夏とその周辺に関する学際的な研究熱は高まりつつある。西夏の歴史・言語・文化に関する総合的な国際学会『第二回国際西夏学会』『第三回国際西夏学会』が 2005 年夏・2008 年秋に、西夏の重要な遺跡である黒水城（カラホト、中国・内蒙古自治区）の歴史と周辺環境に関する『黒水城人文与環境国際学術研究会』が 2006 年秋に、それぞれ中国で開催された。中・台・日・露・米といった各国の研究者が一堂に会し、西夏に関する学術的関心の高さを窺わせた。

また、遼夏金（契丹・西夏・女真）の言語・文献という枠組みでの研究も、『遼夏金元歴史文献国際研究会』（2008 年秋、北京）のような学際的なものとなりつつある。

2. 研究の目的

(1) 西夏語資料の整理

近年、かつて西夏の都があった銀川（中国・寧夏回族自治区）をはじめとする中国各地で西夏文字資料の出土と整理が行われている。それでも、20 世紀初頭にカラホト（黒水城、かつての西夏北部の要衝）で出土した西夏文字資料が質量ともに一級であることは論を俟たない。ロシア科学アカデミー東洋写本研究所（ロシア国、サンクトペテルブルグ市）には、これらの資料の大半が所蔵され、整理作業が進んでいる。それを原版とする貴重なマイクロフィルム形式の資料が東洋文庫（東京）に所蔵される。これらのマイクロ資料の内容を整理し、将来的には目録を公開することを本研究の目的とする。

(2) 言語学・文献学的研究

本課題では、単なる数値・文字データの入力にとどまらず、漢語・チベット語題名の西夏語への訳出規則といった言語学的分析、及び、西夏語仏典の特徴を抽出するという仏教学的見地からの研究も目的としていた。例えば仏典名一つとっても、文法的な要素が題名にも現れる。語学・言語学的な見地からの考察は不可欠なのである。

3. 研究の方法

(1) 現物実見調査（ロシア）

本研究では、既刊の写真版などの資料集のみに頼ることなく、文献を所蔵する海外の所蔵機関に直接赴き、資料の現物を実際の眼で見ること、そのうえで正確なデータを収集することに重きを置いた。

東洋文庫所蔵マイクロフィルムには、現物の撮影に不可避な誤りに起因して、実際のページが脱落していたり、掲載順序が混乱している場合がある。したがって、東洋写本研究

所での現地調査、実際の文献調査を行うことが欠かせない。申請者は複数回、ロシア、サンクト・ペテルブルグに渡航し、東洋写本研究所にて、主に西夏文仏教文献の実見調査を行った（2011年7-8月、2012年2月、2012年7-8月、2013年2-3月など）。

(2) 西夏文字フォントによるデータ処理

9割近くの意味が判明したとされる西夏文字であるが、仏教術語として正確に意味が把握される文字ばかりではない。西夏文字文献名の漢語訳・和訳には自ずと限界があるのが実情である。このため、文献名を西夏文字フォントでも入力し、整理した。

4. 研究成果

(1) 各種データの多言語入力

東洋文庫所蔵西夏文マイクロフィルムについて、研究代表者がかつて入力したデータのチェックも行い、西夏文字（西夏文字題名については西夏文字フォントによる入力）・漢訳・目録番号の入力も終えた。東洋写本研究所所蔵の「西夏語文献原題」「目録番号」を、将来的な公開に向け整備しつつある。また、1963年ロシアで公刊された『タンゲート写本と刊本』における文献目録の、西夏文・漢文題名の入力も終え、公開を検討中である。

(2) 西夏語資料による言語学・文献学研究

ロシア所蔵西夏文字文献の実見調査によって、研究代表者の専門とする、言語学・文献学研究も進展させることができた。公表したものに限っても、チベット文字の振り仮名から見た西夏語の音韻、法律文書における動詞接頭辞の用法、指示代名詞の機能、否定接頭辞の音変化などの言語学的研究、西夏文『金剛経』各種異本の整理、西夏文字で書かれた兵器の設計図の解明などの文献学的研究を進めることができた。

(3) 日本所蔵西夏文資料図録の刊行

これらの研究に加え、日中共同編集により出版準備が進められていた『日本蔵西夏文文献』（上下巻、2011）を刊行した。本書は研究代表者と、北方民族大学（中国・寧夏回族自治区）武宇林教授の協同により刊行された大型図録である。日本国内の大学、研究機関の所蔵する西夏文文献を初めて全て網羅するもので、言うまでもなく今後の西夏研究に多大な貢献が期待される書物である。同書の刊行もまた、本研究の将来的、国際的な研究成果である。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計6件）

- ① 荒川慎太郎、西夏語の文について、チベット=ビルマ系言語の文法現象2：述語と発話行為のタイプからみた文の下位分類（澤田英夫編）、査読無、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、2013、pp. 151-173
- ② ARAKAWA Shintaro、On the Draft of a Tangut “Stone Launcher” -Tang. 46 inv. No. 156 (2006) st. inv. No. 5217 preserved in Oriental Manuscripts Institute, Russian Academy of Sciences-、*Письменные памятники Востока*. Вып. 2 (17)、査読無、2012、pp. 44-51
- ③ 荒川慎太郎、關於仏典刊本中出現的的西夏異体字、首届中国少数民族古籍文献國際學術研討會論文集（黃建明・聶鴻音・馬蘭主編）、査読無、北京：民族出版社、2012、pp. 152-157
- ④ ARAKAWA Shintaro、Classification of

the fragments of Tangut *Vajracchedikā-prajñāpāramitā* kept in the British Library、薪火相伝 史金波先生 70 寿辰西夏学国際学術研討会論文集 (中国社会科学院民族学与人類学研究所編)、査読無、北京：中国社会科学出版社、2012、pp. 330-353

- ⑤ ARAKAWA Shintaro、Re-analysis of “Tangut-Tibetan” Phonological Materials、*Medieval Tibeto-Burman Languages* IV (Nathan W. Hill ed.)、査読無、Leiden; Boston: Brill、2012、pp. 171-189
- ⑥ ARAKAWA Shintaro、On the Tangut Verb Prefixes in “Tiansheng Code”、*Тангуты в Центральной Азии - Сборник статей в честь 80-летия профессора Е. И. Кычанова*、査読無、Москва：Издательская фирма «Восточная литература」、2012、pp. 58-71

[学会発表] (計 10 件)

- ① 荒川慎太郎、西夏語の否定接頭辞の音変化について、日本言語学会第 145 回大会、2012. 11. 24、九州大学箱崎キャンパス
- ② ARAKAWA Shintaro、On the Tangut Prefixes and the Classification of the Following Verbs、The 45th International conference on Sino - Tibetan Languages and Linguistics、2012. 10. 28、School of Humanities and Social Sciences, Nanyang Technological University, Singapore
- ③ ARAKAWA Shintaro、On the Tangut Verb Prefixes in “Tiansheng Code”、*«Тангуты в Центральной Азии»* (International Conference “Tangut in Central Asia”)、2012. 6. 22、ИВР РАН (ロシア科学アカデミー東洋文献研究所, サンクトペテルブルグ・ロシア)
- ④ 荒川慎太郎、ロシア東洋文献研究所所蔵西夏語文献 Tang. 46, inv. No. 156 再考、遼金西夏史研究会第 12 回大会、2012. 3. 25、学習院大学目白キャンパス
- ⑤ ARAKAWA Shintaro、Catalogue of Tangut Documents and Study on Tangut Language、国際ワークショップ「西夏・契丹文文献の図録化と課題」(International Workshop: Xixia and Qidan Documents - Cataloguing and Task -, 2012. 3. 23、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所大会議室
- ⑥ ARAKAWA Shintaro、On the Usage of Tangut Demonstrative Pronouns in the Buddhist Texts、第二屆西夏学国際学術論壇、2011. 8. 18、西涼大酒店六楼會議室・武威・中国
- ⑦ ARAKAWA Shintaro、On the Tangut grammar based on the Tangut version of “Prajñāpāramitā-hrdaya-sūtra with a commentary” preserved in Russia、仏光大学慶祝校十週年專題系列講座 (五) (10th Anniversary Celebration Lecture Series Part 5)、仏光大学仏教研修学院、台湾
- ⑧ ARAKAWA Shintaro、On some allograph of Tangut script in the printings of the Buddhist texts、First International Conference on Ancient Manuscripts and Literatures of the Minorities in China

(首届中国少数民族古籍文献国际学术研讨会)、2010. 10. 20、中国社会科学院民族学与人类学研究所 3 階会議室・北京・中国

- ⑨ ARAKAWA Shintaro、Classification of the fragments of Tangut *Vajracchedikā-prajñāpāramitā* kept in the British Library、International Conference on Tangutology (薪火相伝—西夏学国际学术研讨会)、2010. 10. 23、中国社会科学院民族学与人类学研究所大会議室・北京・中国
- ⑩ 荒川慎太郎、西夏語の遠称指示代名詞の使い分けについて、日本言語学会第 141 回大会、2010. 11. 27、仙台・東北大学川内北キャンパス講義棟 A・A201 教室

[図書] (計 1 件)

武宇林・荒川慎太郎主編、北京：中華書局、日本蔵西夏文文献(上下冊)、2011、総538pp.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

荒川 慎太郎 (ARAKAWA SHINTARO)
東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所・准教授
研究者番号：10361734